

令和5年度 第2回 第1層協議体 議事要約

日時：令和5年12月14日（木）

午後2時～午後3時30分

場所：枚方市保健センター 4階 会議室

発言者	内 容
事務局	<p>それでは定刻となりましたので、令和5年度第2回第1層協議体を開催いたします。</p> <p>本日はご多用のなか、本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日、課長は公務のため、ご挨拶は省略させていただきます。</p> <p>それでは本日の案件ですが、案件1は介護予防・生活支援サービス事業等について、案件2として地域課題の検討について、その1つ目がおでかけタクシー、2つ目がいすプロジェクトです。</p>
事務局	<p>それでは、次第に沿って案件を進めていきます。案件1、介護予防・日常生活支援サービス事業等についてです。</p>
事務局	<p>それでは、今回新たに事業所を選定することになった経緯等についてお伝えをさせていただきますと思います。従来の介護予防通所介護、介護予防訪問介護の2つのサービスにつきましては、要支援1・2の方を対象に全国一律で介護予防給付として行われておりましたが、本市では平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」ということで要支援1～2、要支援相当の方を対象にしたサービスとして、各保険者で地域の実情に合わせて実施していく、地域支援事業という介護保険のなかのしくみに移行しました。なお、事業の展開としては、介護予防・生活支援サービス事業の「教室型通所事業」は、要支援1・2相当の方々が担当のケアマネジャーのケアプランにもとづいて利用する流れになっております。一方、「ここから介護予防教室」については、一般介護予防事業として65歳以上の虚弱な高齢者の方々を対象にした事業ということで組み立てを考えております。まず「教室型通所事業」で体力等を高めていただきながら最終的には地域でのいろんな取り組み等にご参加いただけるまでの体力等をつちかっていたくような場ということで、一般介護予防事業の「ここから介護予防教室」にご参加いただくような流れも1つではないかと考えておりますので、2つの事業を一体的に実施しております。</p> <p>次に、現在の参加状況をお伝えさせていただきますと、平成元年度ぐらまでは参加人数も順調に増えておりましたが、令和2年度のコロナ禍の影響を受けまして、以降は急激に参加者数が減少しているというのが現状です。</p> <p>そこで現状について地域包括支援センター及び実施いただいている事業者の方への聞き取りをさせていただいた結果、いくつかの課題が見えてきたところです。地域包括支援センターからは、現在の「ここから介護予防教室」は年に2回しか開催がないためにタイミングがあわないという声や、最低履行人数が5名ということになっておりますので、その人数を満たさないと開催ができない、というような事業者の課題がでてきま</p>

	<p>した。押しなべて、施設の場所が遠くて行きにくい、最低履行人数による開催不可の可能性があるので案内しにくい。地域の中での居場所など社会資源が増えてきて教室以外の選択肢があるというような声を地域包括支援センターからはお聞きしました。それらをもとに、今後の改善点ということで次のように考えました。</p> <p>開催回数を増やすことと、最低履行人数をもう少し少ない人数から開始できるようにしたいこと。あと何よりも、より身近な場所での実施を行っていききたいということで、今現在市内3か所行っておりますが、5か所ということで、2か所を増やしていきたいと考えております。</p> <p>今月の下旬ごろには、いただいたご意見等を参考に市の方で選考と場所の決定をさせていただきます、令和6年4月から実施をしていくこととなります。</p> <p>また、この場で選定についての意見聴取をさせていただくことについてですが、介護予防・日常生活総合支援事業を開始したとき、介護予防・生活支援サービスの体制を整備するために、第1層協議体や、第2層協議体がサービスを構築していくための意見交換の場として位置づけております。</p> <p>そこで、11月の初旬に委員の皆様につきましては、選定基準についてのご意見をお伺いさせていただきました。ご協力いただきましてどうもありがとうございました。いただいたご意見につきましては資料1をご覧くださいと思います。回答数12人、意見なしが10人、「意見あり」ということですが、選考以外の事業内容等についてのご意見であったため、案どおりの選定基準ですすめさせていただいております。</p> <p>改めまして、選定方法についてですが、必須項目と、加点項目をもって選考していく流れになっております。必須項目の条件を満たした事業者についてのみ、加点を行うこととなります。選考にあたりまして、先ほどの現状の課題にもありましたが、遠くて行きづらいというご意見等もあったところから、事業者側の偏在がおこらないように、市内を4つのエリアに分けてそれぞれのエリアから1か所は選定するように考えております。なお、今回のエリアにつきましては、この教室等を選定するにあたってのエリアとして設定したものです。北エリアは日常生活圏域の第1、2、3圏域、中エリアは第4、5、6日常生活圏域、南エリアは第7、8、9、10日常生活圏域、東エリアは第11、12、13日常生活圏域で設定しております。</p> <p>この場では、市民の方々に通っていただきやすい場所ということで、送迎の有無や駅などに近いところについて、ご意見をお伺いさせていただきたいと考えております。3つの視点ということで、参加していくにあたっての継続参加ができそうなプログラムの工夫があるかどうか、2つめは継続参加のための工夫が感じられるかどうか、3つめは運動継続のための工夫があるかどうかについて、ご覧いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>次に、閉じこもりとか体力低下の予防を目的にした教室等は、どんな内容であれば参加しやすいかということ、2点目としては修了後にも生活リズムや体力づくりを継続していくためには、どんなことが大事な要素になるのかというテーマや、もし自分だったらこんな教室等に参加してみたいな等の、忌憚ないご意見をいただけたらと思います。</p>

委員	今自分だったらっていうところの観点しかありませんが、顔見知りの方が通いやすいかなというのは思います。
委員	そうですね。自分だったらというふうに考えたときに、先ほどもおっしゃったように生活のリズムというのも考えていかないとダメだとは思っていますので、ある程度決まったプログラム、決まったことを継続してやっていくのはどうかなと思っています。あとそこに来るたびに違うことを取り入れていけば楽しいことも見いだせて続くかたちになっていくんじゃないかなと思います。
委員	閉じこもりの予防と体力低下の予防ということでしたが、分けて考えることも必要かなと思っておりまして、閉じこもりを予防と体力低下の予防ではアプローチの仕方が違うと思うので、ここは分けて考えたいなと思いました。閉じこもりの予防という話になってくると、閉じこもり状態の人をどうみつけるのかというところから議論が必要かなと思うので、この件は地域包括支援センターや民生委員とかどう連携するのかというの必要なかなと感じていました。あと先程の方がおっしゃってのように口コミって結構大事だなと思っていて、近所のこの人が行っているから行こうっていうのはやっぱりよくあることなので大事なかなと感じました。体力低下の予防ですが、体力を維持したいのなら一応エビデンスとしては毎日ラジオ体操を40分ぐらいしないといけないのと、毎日7,000歩ぐらい歩かなければいけないと言われてます。そこまで行っている人の健康寿命が一番長い、体力が落ちにくいっていうエビデンスはありますよ、ということはいつもお伝えしていますが、結構皆さんできないよね、という話になってくるのですが、無理なく「やろう」という気持ちをどうやって育むかっていうのが介護予防事業の教室運営のポイントになるのかなとは思っています。そこを育むためには自己肯定感っていうか、やってみようという気持ちをいかに育てられるかというのが継続するために必要かなと思います。
委員	これは統計をとったわけではなくて私の感覚ですけども、体力づくりっていうところでは、私は前から例えばスイミングスクールを市が体力づくりの入口としてサポートすると、たいがい送迎車も持ってらっしゃるので、3か月間は市の方のサポートをするので、継続するかどうかは皆さんで考えましょう、というところでお友達ができるから、多くの方は継続されたりとかはするかなということが1つと、割と皆さん成果ができるものがお好きなので、例えば野菜作りの菜園を市が買い取って、先生付きで野菜作りとかをやってみるとか、遠くまで行かなくても地域で野菜作りのような教室をしてさしあげるとか。できれば一番いいと思うのは料理教室のようなものあって、それを地域の人に配布できるようなしくみができると思うと頑張れる方もでてくるのかな、役割として位置づけていけるようなしくみになれば継続して頑張れる方もいらっしゃるのかな、そういうことができたらいいなと漠然と思っています。
委員	要するに会場へ送り迎えできる体制が充実していくことが必要だと思います。それから参加して楽しく感じる環境が大事だと思います。それから途中で飽きがきた時にどういうふうに対応するか、代替する手段は考えておかなければいけないのかなということも思いました。

委員	<p>自分自身で考えると、まず通いやすい場所が一番いいのかな。近隣で教室をしているのですが、いろんな坂が多いのでその坂を超えて参加するのに皆さん苦労されているので、立地条件が非常に大事なということと、年代が高くなればどうしても一人で参加するのを躊躇すると思います。お友達が一緒だったら行こうかと言って行きやすいかな、その声掛けをどうするかというところは色んな方のお世話になるのかな。楽しく参加するために長続きするようにと考えていきたいなと思います。</p>
委員	<p>皆さんのお話の中でやはり知り合いがいる方が参加しやすいというところにあるのだと思います。ただ限られた人数の中でそういう知り合いの集団が入ってしまった時に、全体に調和するのかが少し気にかかる場所があって、声掛けをするような積極的な方ってたぶん状態がいいと思いますので、そういう方が結果的にリーダーになってしまうことが教室の実行性に発揮されると思うので、そのレベルの参加者が集まるかということが事業として難しいのではないかと思う部分ですね。</p>
委員	<p>この教室ですけども一口で言うとハードルが高いな、という印象を受けます。週2回通常1か月で8回になりますね。3か月で24回、65歳の高齢者でも趣味もあり、持病の通院やショッピング等の予定を組み入れております。そうなった場合に3か月で24回通える人はかなり厳しいことになるのじゃないかな、という印象を持っています。やっぱり週1回ぐらいが長く続けられる、そして無料参加の人が全員12回ぐらいを全うできる回数じゃないのかなということをちょっと心配しています。</p>
委員	<p>やはりその閉じこもりイコール体力低下、廃用症候群につながるということを考えた場合に、閉じこもりで外出をしないということを大きく考えていく必要があるかなという気がします。そのような意味でいうと、高齢者自身の問題、家庭環境の問題や色んな要因があると思うのですが、それらも考えながら自分自身にとってその目標をどう持つかということが一番大きいので、その動機付けがきちんとできるかどうかが必要支援1、2の方のケアプランを作るにあたって、本人とのアセスメント等色々なことも深めていくことが非常に大事なことなのかなって気がします。</p>
委員	<p>今回の教室の参加について、シルバー人材センターに入会して実際にお仕事される流れに似ていると思います。シルバー人材センターでは、60歳以上の枚方市内にお住まいの方が、ご自身が登録してお仕事をしたいと入っていただくのですが、入会の経緯について、お知り合いに入会の方がいるからというものもありますが、家族さんが勧めてくださったというのがあるので、この教室についてもご本人さんだけでなくご家族の方とかが「お父さん、お母さんに行ってもらいたいな」というイメージが持てたらつながっていくのかなというのを思います。また、実際に何をやるのかわかってない方が多いのですが、中には普通に普段暮らしていて公園等で掃除をしている人や、学校の正門のところで下校の時間帯に声掛けをするお仕事もいただいておりますが、具体的に行ってみてどんな仕事ができるのかというイメージを持てることが大事なのかなと思いますので、こういう教室があってその先に行ってみたらどんな事ができるんだろって具体的なイメージ持てる事が参加につながっていくのかなと思いました。</p>

事務局	いただいたご意見も参考にさせていただきながら、市の方で後日選定をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
事務局	案件2に入る前に、今の意見交換の中で農業についてお話が出ましたので、シルバー人材センターでの取り組みと、地域包括センター安心苑と松徳会の取り組みについて、それぞれお話いただきたいと思います。
委員	今年度から山之上の遊休地を民間の方からお借りしまして、ある会社が行っているしゃがまなくて立った状態で農業ができるトレファームという、このような机の上に野菜を作ってお水とかも基本的には自動で出てくるというものですが、高齢の方でお身体がちょっと不自由という方でも参加していただき、農業で土に実際に触っていただくといった取り組みを始めております。今後は、この場所で実験的に始めたところへ参加していただく方が増えて、実際にできた野菜とかを販売や小学校等にお配りするという活動ができればいいなと思っています。
委員	参加者はその場所へはどうやって行かれるのですか。
委員	基本的には地域のシルバーの会員さんに携わっていただいております。自転車や歩いて来ていただいております。そこでは立ったり座ったりしないでいい最新式の農業の他にも、同じ敷地内で従来からの土の中に埋める農業もやっておりますので、いろんなかたちで土いじりのようなことができればいいなと思って始めております。
委員	実際にはシルバー人材センターの会員が行っているということですか。
委員	そうですね。まだ今は少数ですが完全に会員さんが土を耕すところから始めていただいております。
委員	一般の人は入っていないということですか。
委員	一般の人は、今は入っていませんが、将来的には地域の方にもお願いできるのであればイベントとかもやっていきたいな、というふうに考えております。
委員	どなたが主体でその設備投資などを行っているのですか。
委員	基本的にはシルバー人材センターでやっております。
委員	土地を借りて設備もつくって、シルバー人材センターの登録をしている人で野菜を育てるということですか。
委員	そうですね。一部市の方から補助をいただいております。
地域包括支援センター	もともと女性が活発に活動しているサークルはありますが、男性の居場所が少ないのではないかということで、地域包括支援センター松徳会が「男の居場所づくり」ということで利用者を募集しようと考えていたところに、ある法人から無償で遊休地を使っていいよという話があったので、来ていただいた高齢者の方に畑をするのか別にキャンプをしても良いしという話から、畑をすることになりました。今では月1回もしくは畑の手入れ状況によっては臨時で月2回ほど活動しています。地域包括支援センター安心苑が関与させていただいた経緯は、その土地が地域包括支援センター安心苑の圏域内にあるので一緒に取り組んでいくことになりました。もともと法人は高齢者の仕事作りをしたいと思って模索していたのですが、そのような話があるのであれば畑作りと居場所づくりを合わせて取り組んでいこうということになりました。畑を作っている合間に、例

	<p>えば石鹼を作って製品にして販売し、一周まわったら自分たちで運営できるようになるということを考えています。参加者は、自立の方になります。要支援の人は、誘って見ましたがやっぱり動きがハードということで参加は難しいようです。元気な人がより元気を続けられるようなイメージの事業になっています。</p>
事務局	<p>それでは次第に戻りまして、地域課題の検討のおでかけタクシーについてです。前回の第1層協議体で本件については経過等をご報告する旨お伝えしておりました。地域包括支援センター安心苑作成の資料4が本件の資料になります。報告は安心苑の管理者から行います。</p>
地域包括支援センター	<p>おでかけタクシーの経過報告です。事業内容は、おでかけしにくい人が数人集まりってグループを作り、タクシーに乗りあって例えば買い物に行くという事業です。住民説明会に実際に来られた方が14名で、登録した方は9名ですがその中には具体的な行きたい場所があって登録をした方が6名、登録だけはするけれども具体的に行きたい場所がないという方がおられました。ただその6名の行きたい場所がバラバラでした。そこで、行き場所が近い2人で1グループを作ってスタートをしました。けれども、1人が出発時間に来られず、迎えに行きました。2人でタクシー乗って最初の割り勘は問題なく行われましたが、帰りも出発時間に来られなかったので連絡をしたら、約束自体を忘れては帰宅されていました。</p> <p>事業を振り返ると、登録したあとは電話のやりとりで日程調整したので、その人のバックボーンもわからないし、住所と氏名と年齢としかわからないという状態で受付をしており、ケアマネジャーがよくやる面接とかアセスメントっていうのはしてなかったことが問題でした。その後もう1回チラシを配布したところ、1件2件の問い合わせとともに登録も増えています。当初からの行先確定者の行きたい所と新規登録者が行きたい所が合えばまた新たなグループができるので、しばらく続けていこうかなと思っています。かつ地域での介護予防教室などの際にこの事業を周知して広げていこうと思っています。</p> <p>今回学んだことは、地域課題を私達は抽出してきましたが、抽出するだけでは誰も解決してくれない。自らがすすんで解決方法を自分だけでなく皆で相談したらいろんなアイデアがわいてくる。かつ、それを具体的に解決しようと思って行政に相談したら行政は協力を惜しまない。それでこの事業ができたので、地域でも、いろんな課題をあげて何とかしてくれではなくて、どうやったら解決するのか、1人ではなくて皆で考えたら方法はみつかるのかな、と思っています。</p>
事務局	<p>ちなみに、この事業の試行期間は1月末まででしたよね。</p>
地域包括支援センター	<p>UR住宅供給機構から無償でタクシー乗り場を貸していただく期間は、6か月なので1月末までですね。</p>
委員	<p>この事業は現在も動いていて、利用者もいらっしゃるのですか。</p>
地域包括支援センター	<p>登録者や相談もあるけれども具体的にグループはできてないという状態です。</p>
事務局	<p>第1層協議体の次回開催は2月以降のいずれかの日を予定していますので、またご報</p>

	<p>告させていただきます。</p>
事務局	<p>次の案件のいすプロジェクトへ進めていきます。7月の第1回第1層協議体で皆様へ、是非この取り組みにご協力いただければということと、各団体を代表して出席いただいておりますのでお持ち帰りいただき、各団体の皆様のご意見等を第2回でお聞かせていただくようお願いをしておりましたので、お伺いできればと考えています。なお、今日ご都合で欠席されてる委員の方につきましては、次回来られましたらお伺いしようかと思っております。</p>
委員	<p>報告はしましたけれども意見とかは特に出していません。</p>
委員	<p>前回もこの会議に参加させていただいて大変いいプロジェクトだなということで、個人的ではありますが、私どもの法人で会議内容の報告をさせていただき、賛同も得られました。でも実際に、具体的な話はまだ詰められませんけれども、できたら「いすプロジェクト」は法人として取り組んでいきたいと思っております。あと施設長会での意見はまだ聞いていないので、引き続き案件について報告して、取り組んでいきたいと思っておりますのでお願いします。</p>
委員	<p>枚方市通所・訪問リハビリテーション連絡協議会の傘下法人の方にはプロジェクトのことを伝えており、協力的な感じです。このプロジェクトに関しては前回宿題があったので、枚方市介護支援専門員連絡協議会の会長と、その後個別でも話をさせていただいており、その進捗を共有させていただきます。前回私の方から商業関係との連携を提案させていただきましたが、その流れである会社の代表の方と話しをしまして、枚方の情報を取り扱うメディアにのせる方法について、有料で広告すること、無料でのせる方法があるが、無料でのせる場合には現状のプロジェクトでは主旨にあわないとのことで、掲載は困難という回答がありました。ただ、例えば、新しく建設できるビルの名前が決まりましたとか枚方市民にとってインパクトがあるような芸能人誰々来た等の話題を提供するコンテンツになっているので、例えば商店街にいすが何百個並んでいるのは「何？」みたいなことであれば無料で記事にできます、とのアドバイスをいただいたので、それを枚方市介護支援専門員連絡協議会の会長にフィードバックさせていただいております。また、有料で掲載する場合に関しても、いすを沢山並べる等のスポンサーとして家具関係の方々にご協力いただくことでプロモーションするという選択肢もあるかもしれないね、というご意見もいただきました。</p>
委員	<p>私が所属している圏域委員会では、13 圏域全体でコンダクターそれぞれの代表者が「いすプロジェクト」を説明している途中です。</p> <p>共通で皆さんおっしゃっているのは責任の所在のところで、破損や事故時等の問題はありながらも取り組む必要があるという意見です。移動の問題は皆が課題に感じていて、出られない・出かけられないというのが非常に多く困っているので、みんなが取り組める方法としてはいいよね、ということが各圏域の共通の回答でした。</p> <p>あと、いす以外のものを考えているところもありました。「いすプロジェクト」を説明できるようなビラ等があると協力を求める際に説明しやすいので、発信元が市に限らず、例えば地域包括支援センター等の信用できるところの名前が共通で載ってるビラを</p>

	<p>作ってもらえませんか、という意見もありました。あと、会長からの呼びかけで現状の高齢者がどこで休憩しているかについて、皆で調べることを提案いただいているので、各圏域で取り組みを始めてくださっているところもあります。</p> <p>また、何十年も前から取り組んでいる介護事業所もありまして、多く利用されているそうです。地域の方からあのいすなかったら困るから出してと言われて、結局 25 年以上継続しており、事業所の近所の人集いの場になっている、というご意見もありました。</p> <p>「いすプロジェクト」から離れますが、ある圏域からは寝屋川とか大東市はリタイヤした方のボランティアさんを募って市と協力して非常に安価な値段で移動支援を公式で行っていたり、大東市は行政が介入して移動の支援の方法を考えたりとかしているようで、枚方は例えば福祉タクシーとか配車センターとかを使って何かできないんですかねというようなご意見もありました。</p>
事務局	<p>枚方市介護支援専門員連絡協議会の通信にこの事業について掲載されているのを拝見いたしました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>7月にこの情報をいただいたので、8月の役員会議で皆さんに説明をして、老人クラブ 180 か所くらいの会長さんに毎月出しているメール便に入れることを相談しましたが、時期や動きを見てからにしようということになっています。いつか各クラブ会長宛に広報して、こういう取り組みがあるという情報を徹底したいと思っています。</p>
委員	<p>資料をコミュニティ連絡協議会の方にいただきましてありがとうございます。役員会の方で配らしていただきまして説明いたしました。みなさん一様になかなかいい取り組み、これが全圏域に広まればいいなというのが皆さんのご意見でした。</p>
委員	<p>自分の地元の校区に限ってはこないだの会議でもお話したとおり、校区の中の道は、いわゆる住宅地の中の道路なので、いすを置くのは無理かなあというお話をさせていただきました。その中で、殿山第二小学校から牧野生涯学習市民センターまでの東西の通学路のグリーンラインが途切れ途切れになっているところが元々あったことから、校区として改めてお願することを考えました。その際に通学路は、通学路に関してはグリーンラインも他の東西だけじゃなくて南北も増やすことや、高齢者にとっても大事な道として位置付けていくこと、災害時にも避難所同士を結ぶ大事な道を地域で守っていかうということをお願することを位置づけようということで、先日 11 月 12 日の第 2 層協議体で要望に賛同いただき、その上で 11 月 20 日に枚方市、枚方警察等に要望書を提出しています。</p> <p>できれば次のステップということで、先ほどの小学校から生涯学習市民センターまで東西の道がちょうど 1 キロあるのですが、例えば 50 メートル毎とか 100 メートル毎に何か目標物（指標）を置き、ノルディックウォークやトレーニングの道になるのではないかと、ということをお願をいこうとしています。</p> <p>他の皆さんもそれぞれの所属団体に対する上程っていう話があったかと思うのですが、先だつてのこの会でもお願したのは他の第 2 層協議体にこの情報を提供して欲しい。改めてお願しておきます。</p>

委員	<p>スタッフ会でこの企画の紹介をいたしました。高齢者がちょっと休める場所を提供するという点に対して皆さんはよい反応を示していました。1人だけあの常設できる場所があるところはいいけども、毎日出し入れしなければならない環境の場合は大変やねということを行っている者はおりました。</p>
委員	<p>私のところはまだ報告だけで終わっています。</p>
委員	<p>シルバー人材センターは、枚方市内の民間の企業や個人のお客さんたくさんいらっしゃる中で、例えば今の段階ではまだ不明なところたくさんあり、責任の体制がもう少し詳しくならないと置けないな、という事務所内での意見がありました。</p>
地域包括支援センター	<p>第4圏域の地域包括支援センター安心苑としては、ケアマネジャーのコンダクターを中心に地域包括支援センターと共同して、ケアマネジャーにこの「いすプロジェクト」の主旨やいろいろな意見交換をしています。概ね賛成というので、この後、介護事業所が集まる際にコンダクターから「いすプロジェクト」の話をさせていただき、概ね全事業所賛成で終わっています。ある事業所は、早速法人の方に伝えたところ大賛成で、病院も協力いただくようなことで徐々に広がっているという感じです。</p> <p>地図で現状のいすがある場所を示すデータにできないかな、というのを考えているところです。また、枚方の「いすプロジェクト」ってわかる印があればいいよね、という意見がでました。</p>
地域包括支援センター	<p>第2圏域の元気づくり・地域づくり会議で圏域のコンダクターから「いすプロジェクト」の話をさせていただき、地域の方からは概ねご賛同をいただきました。ただ実際にやるとなるとなかなか難しいねというところで、取り組みやすい介護事業所を中心に少しずつすすめていく方向です。第2圏域の地域包括支援センター社協ふれあいの事務所でも建物の前にいすを置いております。実際に置いているのを見てもらうことで、また広がっていったらいいかなと思っております。</p>
事務局	<p>今日のこの時点での皆様のいろいろと各団体に働きかけていただいたことを皆様と共有させていただきました。この「いすプロジェクト」は、地道な取り組みになってくるのかな、と考えております。次回以降も皆様と意見交換しながらこのプロジェクトをすすめていけたらなと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。次回につきましては、改めて日程調整とご出欠の確認をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。</p>